



第69期中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

証券コード 6971

京セラ株式会社

社是

敬天愛人

敬天愛人

常に公明正大 謙虚な心で 仕事にあたり
天を敬い 人を愛し 仕事を愛し
会社を愛し 国を愛する心

経営理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献すること。

経営思想

社会との共生。世界との共生。自然との共生。
共に生きる(LIVING TOGETHER)ことをすべての
企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。

心をベースに経営する

京セラは、資金も信用も実績もない小さな町工場から出発しました。頼れるものは、なけなしの技術と信じあえる仲間だけでした。会社の発展のために一人ひとりが精一杯努力する、経営者も命をかけてみんなの信頼にこたえる、働く仲間のそのような心信じ、私利私欲のためではない、社員のみならず本当にこの会社で働いてよかったと思う、すばらしい会社でありたいと考えてやってきたのが京セラの経営です。

人の心はうつろいやすく変わりやすいものといわれますが、また同時にこれほど強固なものもないのです。その強い心のつながりをベースにしてきた経営、ここに京セラの原点があります。

当社名誉会長 稲盛和夫の逝去について

当社創業者・名誉会長の稲盛和夫は、2022年8月24日、永眠いたしました。
生前のご厚誼に深謝いたします。

稲盛和夫に関する情報は「稲盛和夫 OFFICIAL SITE」をご覧ください。
<https://www.kyocera.co.jp/inamori/>





代表取締役会長

山口 悟郎

代表取締役社長

谷本 秀夫

平素は京セラグループに対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

2022年9月30日をもちまして終了しました第69期中間期(当中間期)の業績及び事業内容につきましてご報告いたしますので、ご高覧いただきますようお願い申しあげます。

当中間期は、不安定な世界情勢に加え、原材料価格の高騰等による景気の押し下げはあったものの、当社の主要市場である5G及び半導体関連市場では高水準な需要が継続しました。当社はこれらの事業機会を着実に捉え、2期連続で過去最高の売上高を更新するとともに、中間期としては初めて1兆円を超えることができました。

当中間期の配当金につきましては、業績及び当社の配当方針に鑑み、第68期中間期(前年中間期)に比べ10円増配となる、1株当たり100円とさせていただきます。

当社は、「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」という経営理念と、創業以来受け継がれてきたチャレンジ精神により、新たな目標である売上高3兆円の実現に向けてグループ一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、京セラグループに対して引き続き一層のご支援、ご高配を賜りますようお願い申しあげます。



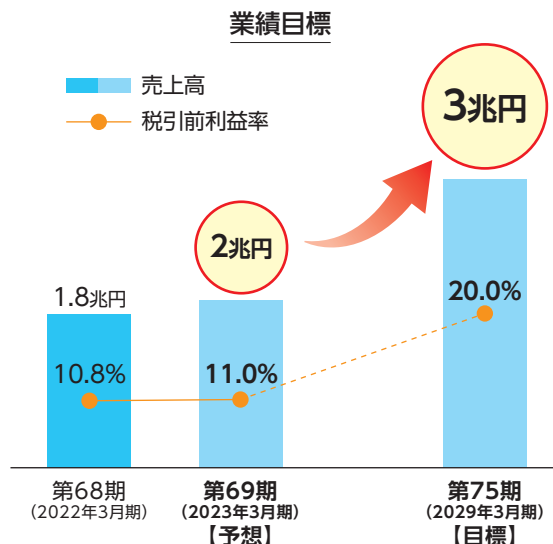
積極的な事業投資と 多様な社員の活躍により 更なる成長を目指す

代表取締役社長 谷本 秀夫

第75期に売上高3兆円を目指す

当中間期の売上高は、半導体関連市場の需要拡大等の好機を捉え、中間期として初めて1兆円を超えました。当下期は、不透明な世界情勢を背景に景気の悪化等が懸念されますが、引き続き受注獲得に努め、かねてより目標としてきた通期売上高2兆円を達成したいと考えています。

当社は新たな目標として、第75期に売上高3兆円、税引前利益率20%を掲げました。この目標達成に向けて、引き続き増産のための設備投資や新規事業創出に向けた研究開発活動の強化、並びに社内に有する様々な技術の融合に取り組んでいきます。また、多様な社員がいそいそと働ける職場環境づくりに取り組み、更なる成長を目指します。

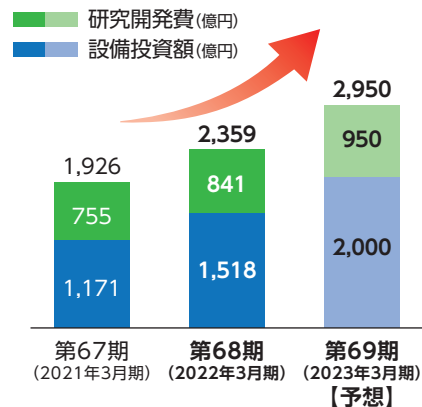


1. 設備及び研究開発への積極的な投資を継続

コロナ禍を機に、世界中でデジタル化が加速しました。インターネットサービスの利用が拡大し、世界を飛び交うデータの量も増加しています。膨大な情報やデータの送受信・蓄積等を支える半導体や通信技術は今後も高度化することが予想され、引き続き高性能な半導体や大容量サーバー、高機能スマートフォンやウェアラブルデバイス等の需要が見込まれます。

当社は、これらの市場における旺盛な需要及び更なる技術革新に対応すべく、関連製品の積極的な増産投資と、新材料・新技術・新製品開発に向けた研究開発投資に取り組んでいます。

投資金額の推移



当期 (第69期) 設立の新工場棟・新拠点

国内外で新工場棟を建設

半導体製造装置に使用されるファインセラミック部品や、スマートフォン等の電子機器に多く使われる各種コンデンサの生産能力拡大に向けて、当下期も引き続き、国内外にて増産体制を拡充していきます。

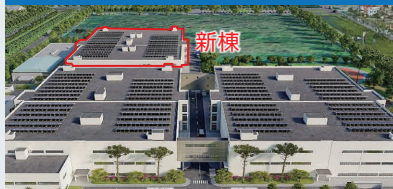
新たな研究開発拠点を開設

情報通信や環境・エネルギー分野における研究開発体制の強化を目的に、鹿児島国分工場に新たな研究開発拠点として、きりしまR&Dセンターを開設しました。これまで同工場内に点在していた材料開発、分析技術、生産技術部門の集約により、開発のスピードアップを図ります。

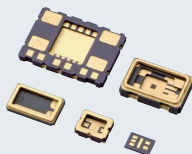


来期(第70期)以降に稼働予定の新棟

ベトナム工場 新棟
(2023年4月以降 順次稼働予定)



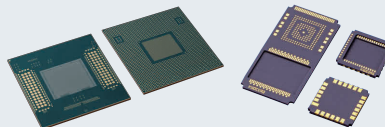
生産品目: セラミックパッケージ



鹿児島川内工場 新棟 完成予想図
(2024年4月以降 順次稼働予定)



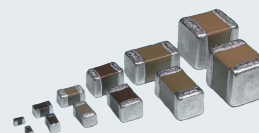
生産品目: 有機パッケージ
セラミックパッケージ



鹿児島国分工場 新棟 完成予想図
(2024年5月以降 順次稼働予定)



生産品目: セラミックコンデンサ



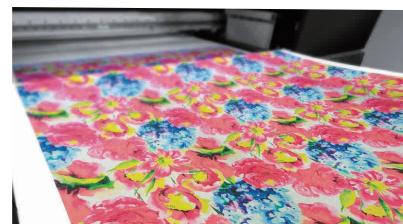
2. 技術の融合により、社会課題を解決

現在、私たちを取り巻く環境は大きな変革期にあります。IoTやADAS(先進運転支援システム)等、通信技術等の活用により利便性が高まる一方、環境やエネルギー問題等の社会課題への対応が求められています。当社は、これまで培ってきた技術の活用や社内外との連携により、これらの社会課題を解決したいと考えています。

その一つが、来期より本格販売を予定しているインクジェット捺染*システムです。プリンター等を手掛けるドキュメントソリューション事業と、印刷機の印字部品を手掛けるプリンティングデバイス事業の技術を融合し、開発しました。繊維・アパレル産業では、大量の廃水や過剰在庫の廃棄等、様々な課題があります。当システムは、洗浄工程が不要であり、また、小ロットの生産にも対応可能であることから、これらの課題解決に貢献できるものと考えています。

当社は今後も、社内に有する豊富な経営資源の活用や連携により、社会課題の解決に努めます。

* 捺染: 布地にデザイン柄をプリントすること



インクジェット捺染システムの印字テスト



インクジェット
プリントヘッド

3. 働きやすさの醸成により、社員の更なる意欲向上を図る

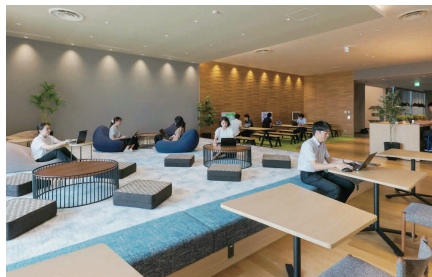
当社は経営理念に「全従業員の物心両面の幸福の追求」を掲げているように、社員一人ひとりがいきいきと活躍できるよう、働きやすさの醸成を図ることも持続的な成長に向けた重要な取り組みと考えています。

当期は、在宅勤務の制度化やフレックスタイム制度の適用拡大、育児・介護・治療と仕事との両立支援等を進めてきました。また、国内の全社員へスマートフォンの配布を予定しており、社内手続きや勤怠管理等の一層のペーパーレス化及びデジタル化を推進し、業務の効率化を図ります。

各種制度や業務の改革に加え、魅力あるオフィスづくりを実現し、社員が働きやすい職場環境の構築に取り組んでいます。

社員同士の交流の場として、各拠点にコミュニケーションスペースや共用のワークスペースの設置を進めています。また、来春には、新東京事業所を開所します。首都圏に所在する拠点を、より利便性の高い東京都港区へ段階的に移転し、統合する予定です。

多様な人材が柔軟に働くことができ、かつ、部門を超えて活発な意見やアイデアを出し合うことで、社員の一層の視野拡大と意欲向上を図り、業績拡大につなげていきます。



きりしまR&Dセンター 交流ラウンジ



京都本社 食堂カフェテリア



東京三田再開発プロジェクト・
オフィスタワー（仮称）完成予想図
（2023年春以降 入居予定）

京セラは、より幸せで豊かな社会の実現に向けて、人や地域に寄り添い、新しい未来を創造する先端技術やソリューションの開発に取り組んでいます。

2022年10月に開催された、あらゆる業種・産業を網羅するSociety5.0総合展「CEATEC 2022」に出展した、当社の先端技術やソリューションをご紹介します。

「CEATEC AWARD 2022」トータルソリューション部門 準グランプリを受賞

CEATEC AWARD 高精細 空中ディスプレイ

リアリティある映像表現の実現により、「思わず触りたくなる感動体験」を提供する非接触デバイス

受賞理由

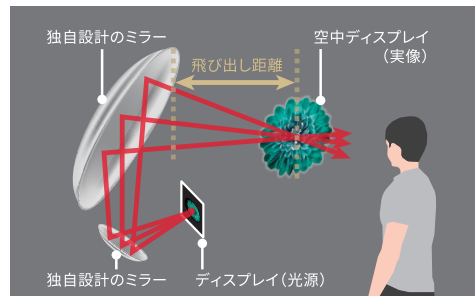
■ 独自の光学設計技術により、小型で高精細を実現

- ・ミラーのみを使用することで、高画質を実現
- ・歪みによる画質の劣化を抑制
- ・高精細を維持したまま、飛び出し距離を長くすることが可能

■ 非接触で衛生的な映像操作の多用途性

- ・高精細な映像表示が求められる医療分野
- ・映像没入感のあるアミューズメント
- ・美術館や店舗等での展示ディスプレイ
- ・自動車のダッシュボード

空中ディスプレイの仕組み



不鮮明な映像表示



より高精細な映像表示

各種センサと組み合わせることで
インタラクティブ(双方向)な非接触操作が可能

車載ナイトビジョンシステム

高精度に危険を察知することで、夜間等の交通事故削減に役立つカメラシステム

特長

■ 世界初*1の白色光と近赤外光の一体型ヘッドライト

- ・車の省スペース化とデザインの自由度に貢献
- ・高輝度、高効率で250m以上の投光が可能
- ・人、物に応じて配光を自動調整し、眩しさを抑制

■ 独自フュージョン(融合)認識AI技術*2による高精度な物体検出

- ・可視光と近赤外光の両方の画像を組み合わせ、より認識しやすい映像をモニターに提示
- ・視界の悪い環境下でも高精度に歩行者や車両を検出することで危険要因を検知し、運転者へ通知

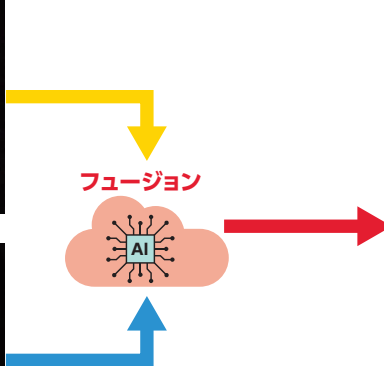
■ 大幅な学習コスト削減と高精度認識を両立

- ・可視光から近赤外光の画像を自動生成する学習データ生成AI技術*3により、学習画像収集に掛かる時間と費用を大幅削減するとともに、高い認識精度を実現



ヘッドライト発光イメージ

フュージョン認識AI技術による高精度検出イメージ

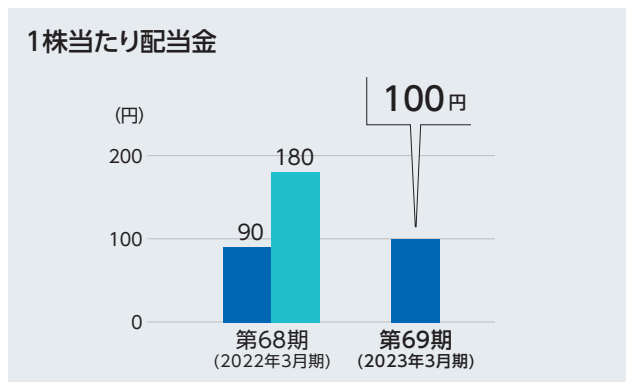
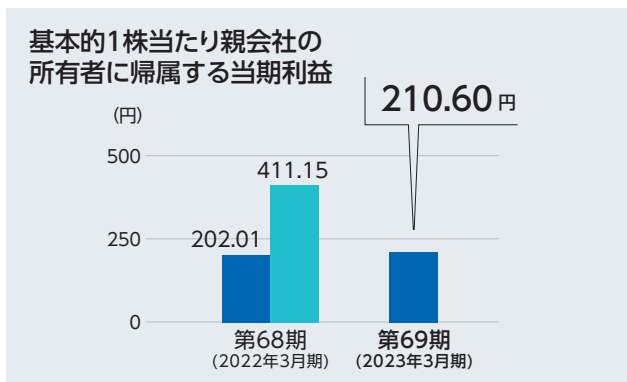
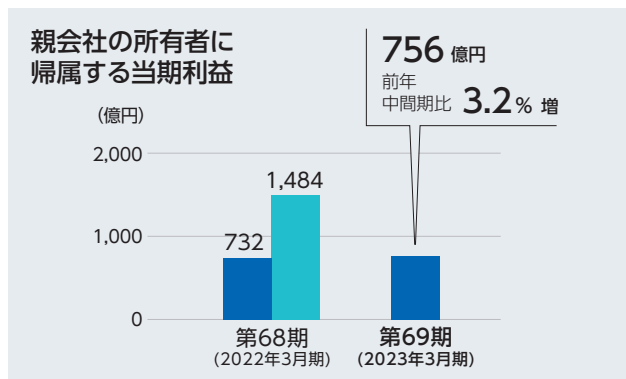
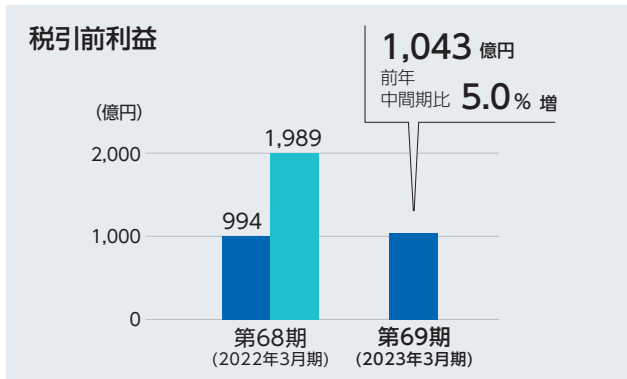
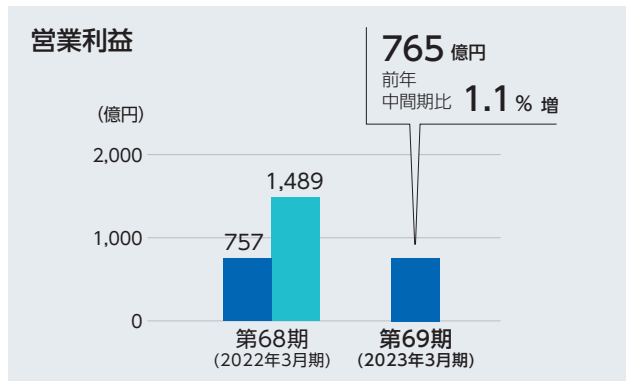
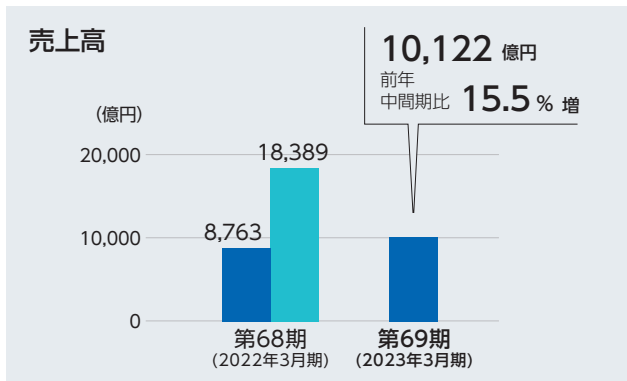


両方の画像から信頼性の高い領域を組み合わせた映像を運転者に提示

*1 白色光と近赤外光を一つの素子(SMD)に組み込んだヘッドライトにおいて(2022年9月当社調べ)
*2 2021年6月 第27回画像センシングシンポジウムにて優秀学術賞を受賞
*3 2022年2月 国際学会BIOIMAGING2022にて発表

第69期中間期の業績ハイライト

連結業績の推移 ■ 中間期 ■ 通期



コアコンポーネント

主要な事業内容

半導体製造装置用部品等の各種ファインセラミック部品や車載カメラモジュール、電子部品やICを保護するセラミック・有機パッケージ等を、産業機械や自動車関連、情報通信市場向けに展開しています。

売上高 **2,990** 億円
(前年中間期比 18.7%増)

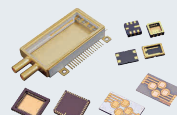
事業利益 **465** 億円
(前年中間期比 65.6%増)



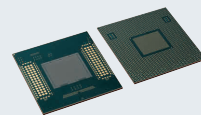
半導体製造装置用部品



車載カメラ



セラミックパッケージ



有機パッケージ

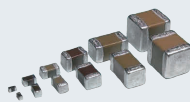
電子部品

主要な事業内容

コンデンサや水晶部品、コネクタ等の各種電子部品やデバイス等を、情報通信や産業機器、自動車関連、民生市場向けに展開しています。

売上高 **1,959** 億円
(前年中間期比 20.0%増)

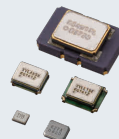
事業利益 **305** 億円
(前年中間期比 16.9%増)



セラミックコンデンサ



タンタルコンデンサ



水晶部品



コネクタ

ソリューション

主要な事業内容

一般向けから各種産業向けの空圧・電動工具や、複合機及びプリンター、スマートフォン、住宅用蓄電システム等の多種多様な機器、システム、並びにソリューションサービスを展開しています。

売上高 **5,241** 億円
(前年中間期比 12.1%増)

事業利益 **257** 億円
(前年中間期比 28.6%減)



空圧・電動工具



複合機及びプリンター



スマートフォン



住宅用蓄電システム
[Enezza® (エネレッツァ)]
[Enezza]は京セラ株式会社の登録商標です

連結財政状態計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (2022年3月31日)	当中間期 (2022年9月30日)	科目	前期 (2022年3月31日)	当中間期 (2022年9月30日)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	1,329,123	1,390,477	流動負債	539,349	545,547
現金及び現金同等物	414,129	378,080	借入金	79,382	78,861
短期投資	25,460	5,215	営業債務及びその他の債務	222,962	225,849
営業債権及びその他の債権	379,066	383,710	リース負債	17,326	18,314
その他の金融資産	18,623	18,579	その他の金融負債	16,552	12,288
棚卸資産	452,506	559,519	未払法人所得税等	20,390	19,708
その他の流動資産	39,339	45,374	未払費用	134,282	140,148
非流動資産	2,588,142	2,759,517	引当金	7,010	9,227
資本性証券及び負債性証券	1,469,133	1,552,716	その他の流動負債	41,445	41,152
持分法で会計処理 されている投資	15,795	15,631	非流動負債	479,643	497,182
その他の金融資産	41,540	41,310	借入金	17,163	16,472
有形固定資産	512,175	575,354	リース負債	35,390	41,055
使用权資産	40,703	47,639	退職給付に係る負債	23,129	9,469
のれん	262,985	273,854	繰延税金負債	384,513	409,200
無形資産	149,879	159,747	引当金	9,631	10,856
繰延税金資産	36,483	38,385	その他の非流動負債	9,817	10,130
その他の非流動資産	59,449	54,881	負債合計	1,018,992	1,042,729
資産合計	3,917,265	4,149,994	(資本の部)		
			親会社の所有者に帰属する持分	2,871,554	3,079,279
			資本金	115,703	115,703
			資本剰余金	122,751	122,523
			利益剰余金	1,846,102	1,888,971
			その他の資本の構成要素	880,297	1,045,320
			自己株式	△93,299	△93,238
			非支配持分	26,719	27,986
			資本合計	2,898,273	3,107,265
			負債及び資本合計	3,917,265	4,149,994

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前年中間期 (自2021年4月 1日 至2021年9月30日)	当中間期 (自2022年4月 1日 至2022年9月30日)
売上高	876,337	1,012,172
売上原価	626,188	721,318
売上総利益	250,149	290,854
販売費及び一般管理費	174,470	214,366
営業利益	75,679	76,488
金融収益	23,127	26,310
金融費用	1,330	1,684
為替換算差損益	1,210	1,953
持分法による投資損益	△186	320
その他—純額	851	924
税引前中間利益	99,351	104,311
法人所得税費用	24,422	27,086
中間利益	74,929	77,225
中間利益の帰属		
親会社の所有者	73,219	75,586
非支配持分	1,710	1,639
中間利益	74,929	77,225
1株当たり親会社の所有者に 帰属する中間利益		
基本的及び希薄化後(円)	202.01	210.60

社 名 京セラ株式会社
 英 文 社 名 KYOCERA Corporation
 本 社 所 在 地 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地
 設 立 1959年4月1日
 従 業 員 数 連結82,300名 単独20,427名
 発行済株式総数 377,618,580株
 (うち自己株式数 18,704,907株)
 株 主 数 51,030名

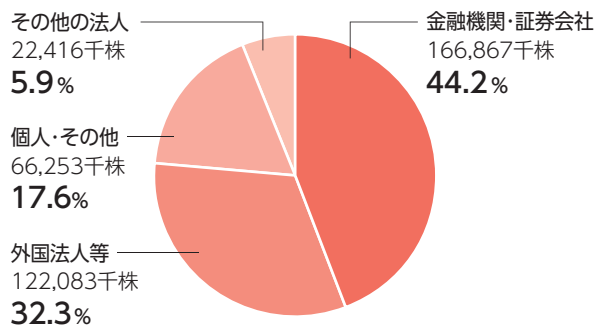
大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	81,725	22.77
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	32,931	9.18
株式会社京都銀行	14,436	4.02
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	10,864	3.03
稲盛 和夫	10,212	2.85
公益財団法人稲盛財団	9,360	2.61
京セラ自社株投資会	6,658	1.86
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	5,718	1.59
NATSCUMCO	5,639	1.57
株式会社三菱UFJ銀行	5,077	1.41

注1) 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

注2) 稲盛和夫氏は2022年8月24日に逝去されましたが、2022年9月30日現在において名義書換未了のため株主名簿上の名義で記載しています。

所有者別株式分布状況



取締役及び監査役

代表取締役会長	山口 悟 郎	常勤監査役	小山 繁
代表取締役社長	谷本 秀 夫	常勤監査役	西村 裕 司
取 締 役	触 浩	監査役(社外)	坂田 均
取 締 役	伊 奈 憲 彦	監査役(社外)	秋山 正 明
取 締 役	嘉 野 浩 市		
取 締 役	青 木 昭 一		
取締役(社外)	青 山 敦		
取締役(社外)	古家野 晶 子		
取締役(社外)	垣 内 永 次		

執行役員

執行役員社長	谷本 秀 夫	執行役員	水上 友 介
執行役員常務	触 浩	執行役員	濱野 太 洋
執行役員常務	伊 奈 憲 彦	執行役員	小澤 雅 明
執行役員常務	嘉 野 浩 市	執行役員	林 正 樹
執行役員常務	青 木 昭 一	執行役員	木里 重 亮
執行役員常務	佐 藤 隆	執行役員	品川 直
執行役員常務	ジョン・サービス	執行役員	長島 千里
執行役員上席	飯 田 真 幸	執行役員	柳澤 秀 二
執行役員上席	黒 瀬 善 仁	執行役員	東原 伸 浩
		執行役員	吉川 英 里
		執行役員	中村 健 一 郎
		執行役員	土器手 巨
		執行役員	橋 浦 佳 代
		執行役員	安 藤 博 教
		執行役員	山 田 通 憲
		執行役員	仲 川 彰 一
		執行役員	長 崎 浩 一
		執行役員	作 島 史 朗
		執行役員	池 内 雅 文
		執行役員	鈴 木 克 彦
		執行役員	千 田 浩 章
		執行役員	脇 克 行
		執行役員	飯 野 晃
		執行役員	芝 田 員 範
		執行役員	ニック・ハンタラス

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定の基準日	定時株主総会、期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	6月
公告方法	電子公告とし、当社ウェブサイト(https://www.kyocera.co.jp)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
〈郵便物送付先〉	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〈電話番号〉	0120-094-777 (通話料無料) 〔受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く) 〕
〈ホームページ〉	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

マイナンバーに関するご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、お届出が
お済みでない株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出ください。

株式に関するお問い合わせ先

	証券会社とお取引のある株主様	証券会社とお取引のない株主様
<ul style="list-style-type: none"> ・配当金の受取方法の指定、変更 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・住所変更など ・マイナンバーのお届出 	証券会社	上記の三菱UFJ信託銀行株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・未払配当金の照会、支払い 	上記の三菱UFJ信託銀行株式会社	

POWER シリーズ

京セラの家庭向け電動工具



より良い住まいと暮らしを力強くサポート

詳しくはこちら



<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/home/>



京セラ株式会社

京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地 〒612-8501
電話: 075-604-3500 (大代表)

<https://www.kyocera.co.jp>



<https://www.facebook.com/kyocera.jp>



https://www.instagram.com/kyocera_official/

@KYOCERA_JP



https://twitter.com/KYOCERA_JP/



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

当報告書の情報は、特別な記載がないものは
2022年11月時点のものです。
当報告書については、無断で複製、転載することを禁じます。
© 2022 KYOCERA Corporation

(注) 将来の見通しに関するリスク情報

当報告書に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて、当社が予想を行い、所信を表明したものであり、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開又は財政状態は、将来の見通しに明示又は黙示される将来の業績、事業活動、展開又は財政状態と大きく異なる場合があります。当社は当報告書に含まれている将来の見通しについて、その内容を更新し公表する責任を負いません。